

財団法人日本ナショナルトラスト

SEEDS OF FURUSATO

～東日本大震災自然・文化遺産復興支援プロジェクト～

平成23年度事業報告

平成 24 年 3 月

財団法人日本ナショナルトラスト



平成 23 年度事業の実施概要

東日本大震災で被災した自然・文化遺産について、地域(まち)の“シンボル”でありながら、国や地方公共団体による支援の及ぶにくいものの復旧・復興を支援することにより、地域風土に根差した暮らしを取り戻すとともに、観光資源としての保護・活用への礎を築くため、(財)日本ナショナルトラストは、観光庁後援、文化庁協力のもと、「SEEDS OF FURUSATO～東日本大震災自然・文化遺産復興支援プロジェクト～」を開始いたしました。

今年度はプロジェクトの枠組み作りを中心に、自然・文化遺産の被災状況調査を行った上で、被災した自然・文化遺産を対象に、平成 24 年度に助成を行う「支援事業」の募集、および対象遺産の復旧・復興を支援する活動を行う団体と連携して実施する「パートナー事業」の募集を行いました。

平成 24 年度支援事業では、申請のあった 56 件のうち、16 件(有形文化財 9 件、民俗・無形 7 件、総事業費計 48,013 千円、助成交付額計 20,906 千円)を選定し、パートナー事業においては、第一次対象として 2 件のプロジェクトを採択いたしました。

広報、募金活動では、プロジェクト発足時における記者会見をはじめ、東京、京都におけるシンポジウムの開催、賛同者によるミニコンサート、首都圏ターミナル駅における募金活動のほか、当財団が有するネットワークの他、観光関係団体等の協力を得て、広くプロジェクトの周知を行うとともに、当財団賛助団体や経済界をはじめ、国内外の団体・個人に働きかけ、積極的に募金活動を実施いたしました。

■事業概要

1. 目的

東日本大震災で被災した自然・文化遺産で、地域(まち)の“シンボル”でありながら国や地方公共団体による支援の及ぶにくいものの復旧・復興を支援することにより、住民が地域風土に根差した暮らしを取り戻すとともに当該遺産の観光資源としての保護活用への礎を築くことを目的とします。

2. 支援対象

東日本大震災により被災した自然・文化遺産の所有者・管理者が以下について行う復旧・復興に対する助成を行います。文化財指定の有無を問いませんが、原則として国による補助の対象となる復旧事業は支援の対象といたしません。

- (1) 有形文化財（建造物等の不動産文化財）
- (2) 記念物（遺跡・名勝地・天然記念物・文化的景観）
- (3) 民俗文化財及び無形文化財

3. プロジェクトの3つの柱

- (1) 地域(まち)のシンボルとなる自然・文化遺産の復興を支援します **【REVIVE THE SYMBOLS】**
文化財指定等の有無を問わず、地域に根差した自然・文化遺産について、所有者や管理者が行う復旧・復興事業に対する支援を実施します。
- (2) 趣旨に賛同する国内外の団体・個人から寄付を募ります **【DONATION CAMPAIGN】**
公益財団法人日本ナショナルトラスト(JNT)に寄付をいただくと、所得税、法人税の税制上の優遇措置が適用され、税控除が受けられます。
- (3) 国、専門家(学会、技術者等)、国内外の活動団体とのネットワークを活かします **【PARTNERSHIP】**
被害情報の的確な把握に努めるとともに、専門的な知見や技術を結集して、被災地域のニーズに応じた支援を実施します。

4. 事業の枠組み

- (1) 支援事業……所有者または管理者が実施する修理・復旧に要する経費の一部を助成する事業
 - ・平成 24 年度より平成 33 年度までの 10 年間の予定でそれぞれの年度ごとに実施します。
 - ・申請のあった対象を委員会で選定し、予算の範囲内において事業に要する経費の一部を助成します。(上率 80%、上限 1 件 250 万円)
- (2) パートナー事業……対象遺産の復旧・復興を支援する活動を行う団体と連携して実施する事業
 - ・採択日から平成 33 年度までの 10 年間で、パートナー団体が定めた期間で実施します。(平成 25 年 3 月までを募集期間とし、現在も公募中)
 - ・パートナー団体が主となって復旧・復興計画の策定、募金目標の設定と募金活動、地域等との協力体制の構築等に努め、当財団はコーディネート、特定募金の呼びかけ、広報、情報発信等を行い、協力して対象遺産の復旧・復興に努めます。

5. 支援の対象とする自然・文化遺産の要件

- (1) 地域のシンボルとして地域住民に認識され、周知されているもの
- (2) 地域において保存・活用の気運のあるもの又は今後予想されるもの
- (3) 歴史的、文化的、景観的な要件のいずれかの価値を認められるもの

■呼びかけ人 (五十音順)

会 長	大塚 陸毅	(東日本旅客鉄道(株)会長)
副会長	川村 恒明	((公財)文化財建造物保存技術協会顧問・元文化庁長官)
理 事	森 まゆみ	(作家)
評議員	尾関 宗園	(大徳寺大仙院閑栖)
	マリ・クリスティーヌ	(異文化コミュニケーター)
	三浦 朱門	(日本芸術院長・元文化庁長官)
観光資源専門委員	尼崎 博正	(京都造形芸術大学教授)
	井手 久登	(東京大学名誉教授)
	大河 直躬	(千葉大学名誉教授)
	大塚 初重	(明治大学名誉教授)
	西村 幸夫	(東京大学教授)
	三隅 治雄	(東京文化財研究所名誉研究員)
	三村 浩史	(京都大学名誉教授)
	宮脇 昭	(横浜国立大学名誉教授)

■賛同者 (敬称略・五十音順)

赤星 憲広	(野球評論家)
荒巻 禎一	(弁護士・元京都府知事)
北川 フラム	(アートディレクター)
木村 佳乃	(女優)
五嶋 龍	(ヴァイオリニスト)
小山 薫堂	(放送作家／脚本家)
千 玄 室	(日本国 観光親善大使／裏千家前家元)
竹下 景子	(俳優)
辰巳 琢郎	(俳優)
林田 英樹	(前国立新美術館長・元文化庁長官)
増田 明美	(スポーツジャーナリスト)
黛 まどか	(俳人)
宮田 亮平	(東京藝術大学学長)
山本 容子	(銅版画家)
養老 孟司	(東京大学名誉教授)

(2012 年 3 月末現在)

■後援 観光庁

■協力 文化庁

■オフィシャルサポーター

東日本旅客鉄道株式会社

東海旅客鉄道株式会社

西日本旅客鉄道株式会社

三菱商事株式会社

全日本空輸株式会社

東京地下鉄株式会社

三井不動産株式会社

九州旅客鉄道株式会社

株式会社ジェイティービー

一般社団法人日本旅行業協会

JX ホールディングス株式会社

住友化学株式会社

第一生命保険株式会社

株式会社東芝

公益財団法人東日本鉄道文化財団

株式会社日立製作所

(2012 年 3 月末現在)

■平成 23 年度事業の実施状況

1. 事業の経緯

5 月 20 日	プロジェクト開始 国土交通省大会見室にて川村恒明副会長が記者会見 観光庁溝畑長官、文化庁近藤長官の同席のもとで実施
6 月 22 日～	所有者等からの事前要望調査開始 12 都県 55 区市町から、134 件の要望が提出(9 月 30 日までの集計)
8 月 18 日	小山薫堂氏(本プロジェクト賛同者)の考案により、プロジェクト愛称が「SEEDS OF FURUSATO」に決定
8 月 29 日	「復興支援の集いIN東京」開催(於:国立新美術館)
9 月 17 日	「復興支援の集いIN京都」開催(於:京都府京都文化博物館)
10 月 31 日	平成 24 年度支援事業およびパートナー事業募集開始 (支援事業は 12 月 16 日締め切り、パートナー事業は平成 25 年 3 月 31 日まで)
11 月 10 日	「旧安田楠雄邸 五嶋龍ミニコンサート＆ボランティアガイドによる邸内見学会」開催
12 月 14 日	JR 東京駅で駅募金イベントを開催
12 月 17 日	JR 池袋駅で駅募金イベントを開催
12 月 19～21 日	被災地応援フェスタ(於:東京国際フォーラム)でPR活動を実施
1 月 13 日	JR 新宿駅で駅募金イベントを開催
2 月 17 日	支援事業特別委員会・パートナー事業小委員会を開催
2 月 20 日	財団理事会で平成 24 年度支援対象および第一次パートナー事業対象を決定
3 月 2 日	国土交通省中会見室にて川村恒明副会長が記者会見。 平成 24 年度支援対象および第一次パートナー事業対象を発表
3 月 4 日	JR 目白駅で駅募金イベントを開催
3 月 24 日	日本建築学会「文化財ドクター派遣事業報告会」東京会場にて取り組み報告
3 月 29 日	日本建築学会「文化財ドクター派遣事業報告会」仙台会場にて取り組み報告

2. 応募件数と採択状況

(1)平成 24 年度支援事業(平成 23 年 12 月 16 日締切)

応募件数:56 件(有形文化財 42 件、記念物 7 件、民俗・無形 7 件)

採択件数:16 件(有形文化財 9 件、民俗・無形 7 件)

総事業費計 48,013 千円 助成決定額計 20,906 千円

(2)パートナー事業(平成 25 年 3 月 29 日締切)

応募件数:4 件(有形文化財 4 件)(※平成 24 年 1 月末時点)

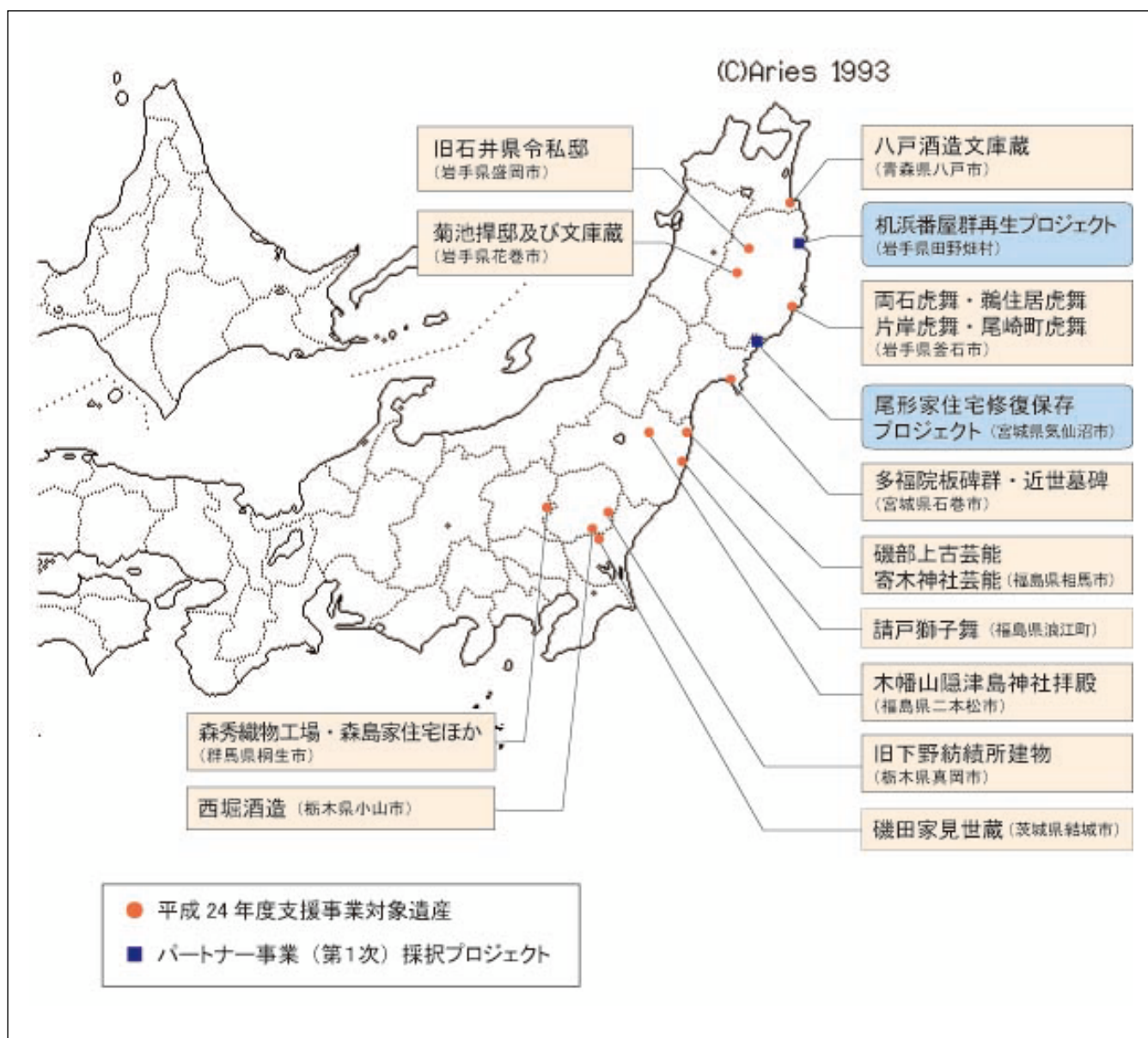
採択件数:2 件(有形文化財 2 件)

3. 募金状況

合計	37,680,490 円 (平成 24 年 3 月末日)
団体	31,808,487 円
個人	5,829,003 円
机浜番屋群再生プロジェクト	21,500 円
尾形家住宅修復保存プロジェクト	21,500 円

4. 平成24年度支援事業対象遺産およびパートナー事業(第1次)

(1) 平成24年度支援事業対象遺産



※今回7件の申請があった無形民俗文化財は、いずれも津波で集落が壊滅的な被害を受けた沿岸部集落の芸能である。今回の選定では、郷土芸能は地域コミュニティにとっての心のよりどころとしてその復活への支援が不可欠であると判断し、申請のあった7件の無形民俗文化財全てを支援対象とした。

1. 八戸酒造文庫蔵（青森県八戸市） 大正後期の建築であり、文庫蔵を含む八戸酒造の建造物群は、国登録有形文化財であるとともに、八戸市の景観重要建造物にも指定されており、歴史・文化を活かしたまちづくりの中核的存在でもある。蔵見学を随時受入れており活用も積極的に行われている。 本事業では、崩落した土壁の修復、ひび割れが生じた漆喰の塗り直しを行う。	助成額：200万円 
2. 旧石井県令私邸（岩手県盛岡市） 岩手県第2代県令石井省一郎の私邸で、設計、施工はともに不明であるが、明治19(1886)年頃建築といわれ、盛岡市に現存する最古の洋風建築のひとつである。昭和52年には盛岡市自然環境及び歴史的環境保全条例に基づく保存建造物にも指定されている。 本事業では、亀裂破損した煉瓦構造体及び煉瓦煙突部の修復、伝統的な漆喰塗工法による左官壁塗り直し、木部補修などを行う。	助成額：150万円 
3. 菊池捍邸及び文庫蔵（岩手県花巻市） 農学の権威者として国内外で活躍した菊池捍の自邸として大正14(1925)年に建てられ、宮沢賢治の寓話「黒ぶだう」のモデルとされている建物である。市民有志による長年の保存活動が行われ、官民あげたまちづくり機運の高まりがみられる中、その中核的な施設としての保存活用が検討されている。 本事業では、文庫蔵の土壁の改修、母屋の漆喰亀裂箇所の補修などを行う。	助成額：150万円 
4. 両石虎舞（岩手県釜石市） 両石虎舞は、航海の安全と大漁祈願として江戸時代中期から伝わり、今なお昔からの芸態を継承している。釜石市指定無形民俗文化財。 本事業では、流失した装束・虎頭・太鼓などの購入、製作を行う。	助成額：50万円 
5. 片岸虎舞（岩手県釜石市） 片岸虎舞は、江戸時代末期にはすでに踊られていたとされており、優雅さと同時に虎の存在感と壮健さを表現した虎舞である。釜石市指定無形民俗文化財。 本事業では、流失した太鼓・笛・装束等の購入、虎頭の製作などを行う。	助成額：80万円 

6. 鵜住居虎舞（岩手県釜石市） 鵜住居虎舞は、江戸時代中期頃に岩手県上閉伊郡から伝わったとされ、鵜住居神社御神体のお供役である。虎頭を使った舞や太神楽から取り入れたとされる囃子方が、ゆったりと優雅であることが特徴とされる。平成23年度に市の無形民俗文化財に指定されることが予定されていた。 本事業では、流出した装束や虎頭などを購入する。	助成額:50万円 
7. 尾崎町虎舞（岩手県釜石市） 江戸時代元禄期に盛岡から伝承されたといわれており、独特の囃子と踊りを今日まで伝送してきている。釜石市指定無形民俗文化財。津波により用具が流出したが、尾崎青友会では、被災後も少ない道具で自衛隊や被災者への虎舞披露も行い、復興への後押しとなっている。 本事業では、焼失した衣装を購入する。	助成額:30万円 
8. 多福院板碑群・近世墓碑（宮城県石巻市） 中・近世の歴史資料として貴重なものであり、津波被害の大きかった地域にあって早急な復旧が望まれる。板碑群は石巻市指定有形文化財に指定されている。 本事業では、倒壊、傾斜、破損した板碑群の復元を行う。	助成額:25.6万円 
9. 磯部上古芸能（福島県相馬市） 地元にある牛頭天王の祭礼や地元行事で披露されるほか、特に13年に1度行われる牛頭天王の御遷宮は神聖かつ盛大で、子供や青年の手踊り、奴踊りなどがにぎやかに行われる。 本事業では、流失した太鼓・笛・着物などを購入する。	助成額:86万円 
10. 寄木神社芸能（福島県相馬市） 寄木神社の祭礼や地元行事で披露されるほか、特に12年に1度行われる御遷宮は神聖かつ盛大で、子供や青年の手踊りがにぎやかに行われる。 本事業では、流出した子ども手踊りの着物などを購入する。	助成額:72万円 
11. 木幡山隠津島神社拝殿（福島県二本松市） 典型的な神奈備山として古代からの信仰の山として地域のシンボルの存在である。毎年12月に開催される「木幡の幡祭り」は国指定重要無形民俗文化財に指定されており、対象遺産はその中核的要素として重要な建造物である。寛政6(1794)年に竣工しており、本殿とともに二本松市指定有形文化財に指定されている。 本事業では、礎石の補強改修、拝殿の修復を行う。	助成額:200万円 

12. 請戸獅子舞（福島県浪江町） 請戸の獅子舞は、300年以上の歴史を有し町指定無形民俗文化財にも指定されている例大祭「安波祭り」において、田植え祭りとともに不可欠な存在の舞である。請戸地区は津波により400戸余りが壊滅し、獅子舞に必要な用具一式が流失したことに加え、原発事故被害により住民は避難を余儀なくされている。本事業では、流失した用具、衣装の購入を行う。	助成額：62万円 
13. 磯田家見世蔵（茨城県結城市） 伝統工芸「結城紬」でも知られる結城市の伝統的な町並みの構成要素であり、市との協議の上で県・市の補助対象とならない本物件を支援に選定した。修復後は国登録文化財への申請が検討されており、結城駅にほど近い場所に位置する見世蔵として、今後の保存活用が期待される。本事業では、左官仕上げ部の漆喰補強、崩落した木製下地（屋根、戸袋など）の復旧などを行う。	助成額：200万円 
14. 旧下野紡績所建物（栃木県真岡市） 明治28年に建築され、工場廃止後大正2年に移築された下野紡績所工場のうちの1棟。大谷石造。栃木県の伝統工芸である真岡木綿の隆盛を後世伝える新たなシンボルとして修復・保存が望まれている。文化庁「文化財ドクター派遣事業」における調査時の助言により、修復方針の助言とともに本プロジェクトが紹介され、保存されるに至った。本事業では、破損した石積壁、内部梁、屋根等の修復及び補強などを行う。	助成額：240万円 
15. 西堀酒造（栃木県小山市） 明治5年創業の酒造会社で、敷地内の建造物群はそのほとんどが大正時代以前の建築とされ、現役で活用されている。栃木県内でも最大規模の伝統的な酒造場として、仕込蔵や煙突などが国登録有形文化財となっており、日光街道に面した歴史的景観のシンボリック存在ともなっている。本事業では、3棟の倉庫について、外壁や屋根の修理を行う。	助成額：250万円 
16. 森秀織物工場・森島家住宅ほか（群馬県桐生市） 桐生の伝統産業である織物産業の遺構であり、ノコギリ屋根工場のほか、整経場、窯場、燃糸場など織物業の一連の施設が現存し、その多くが創建時である大正13年頃の建物で、国登録有形文化財となっている。市内に多数存在する近代化遺産の利活用における先進的な施設であり、日常的に公開・活用されている。本事業では、ノコギリ屋根工場および旧整経場の屋根および内外壁の補修等を行う。	助成額：200万円 

(2) パートナー事業(第1次)

1. 机浜番屋群再生プロジェクト (岩手県田野畑村)

■パートナー団体

机浜番屋群再生プロジェクト実行委員会

■対象遺産の概要

昭和8年の三陸大津波以降に再建された漁師の作業小屋や倉庫などの大小25棟の番屋建造物群。平成14年、地元青年会による保存活動が始まり、18年水産庁「未来に残したい漁業漁村歴史文化財産百選」に認定されたことを受け、所有者と管理者によって「机浜番屋群保存活用協議会」(以下「協議会」)が組織され、エコツーリズムの拠点として積極的に活用されていた。

■事業の概要

番屋群は津波により流失全損したが、協議会にNPO、大学や専門家、地元住民など内外のサポーターを加えた実行委員会(田野畑村役場に事務局を設置)が組織され、番屋再生に向けた構想づくりや、シンボリックな番屋の再建準備に着手している。

本事業では、都市サポーターらへの支援の呼びかけや情報発信、再生後の活用に向けた活動をパートナー団体とともに実施する。

■事業期間・募金目標額

平成24年4月1日～平成28年3月31日(予定)・500万円(予定)



震災前の机浜番屋群(上)と被災後の様子(下)

2. 尾形家住宅修復保存プロジェクト (宮城県気仙沼市)

■パートナー団体

気仙沼・尾形家修復保存会

■対象遺産の概要

気仙沼湾の東岸の岬に位置する旧網元の民家で、200年以上の歴史を有し、国登録文化財への登録を目指して調査がなされていた。地震により全壊し、津波で押し流されたが、約100メートル移動した位置で小屋組が発見された。長押より上の部材は良好な状態で、大黒柱も3本見つかった。

■事業の概要

建築、民俗の専門家らによって、平成23年4月から修復保存に向けて茅葺き屋根と小屋組みの解体、瓦礫内からの部材救出などが実施されてきた。保存会を中心に、行政・地域住民との協議をもとに修復計画を策定し、気仙沼市の文化財として再建・指定を目指すとともに、地域に根付いた文化財として活用を目指していく。

本事業では、再建のための資金・ボランティア協力の呼びかけを、パートナー団体とともに実施する。

■事業期間・募金目標額

平成24年4月1日～平成29年3月31日(予定)・1億円(予定)



震災前の尾形家住宅(上)と津波で流された屋根(下)

■ 広報活動

1. イベントの実施

(1) 復興支援の集い～^{まち}地域の“シンボル”を取り戻すために～

＜会期＞ 8月29日(月)
 ＜会場＞ 国立新美術館 (東京都港区)
 ＜参加者数＞ 126名
 ＜募金額＞ 26,537円

(2) 復興支援の集い～^{まち}地域の“シンボル”を取り戻すために～IN京都

＜会期＞ 9月17日(土)
 ＜会場＞ 京都府京都文化博物館 別館ホール(京都府京都市)
 ＜参加者数＞ 92名
 ＜募金額＞ 41,920円

(3) SEEDS OF FURUSATO 東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクト

特別企画「旧安田楠雄邸庭園五嶋龍ミニコンサート and ボランティアガイドによる邸内見学会

＜会期＞ 11月10日(木)
 ＜会場＞ 東京都指定名勝 旧安田楠雄邸庭園 応接間(東京都文京区)
 ＜参加者数＞ 45名
 ＜募金額＞ 112,500円



復興支援の集いIN京都



旧安田楠雄邸五嶋龍ミニコンサート

2. 募金呼びかけイベントの実施

(1) 東京駅

＜会期＞ 12月14日
 ＜会場＞ JR東京駅新幹線南乗り換え口前
 ＜募金額＞ 180,026円

溝畑観光庁長官、辰巳琢郎氏、松方弘樹氏、森まゆみ氏、マリ・クリスティーヌ氏による募金呼びかけ及び観光の呼びかけと福島県及びいわき市による観光パンフレットの配布を同時開催
 観光関係団体等の協力により募金の呼びかけを実施

(2) 池袋駅

<会期> 12月17日

<会場> JR池袋駅中央通路インフォメーション裏

<募金額> 104,779円

「池袋駅鉄道まつり」に参加し、観光関係団体等の協力により募金の呼びかけを実施

(3) 新宿駅

<会期> 1月13日

<会場> JR新宿駅東口みどりの窓口横

<募金額> 53,275円

観光関係団体等の協力により募金の呼びかけを実施

(4) 目白駅

<会期> 3月4日

<会場> JR目白駅前

<募金額> 152,969円

東北応援フェア「目白から元気よ とどけ！」～目白ロードレース 15周年記念併催行事～において、学習院大学学生ボランティアの協力により募金呼びかけを実施。



東京駅での募金イベント



池袋駅での募金イベント

3. プレス発表

(1) 5月20日・・・プロジェクト実施のプレス(会見)

(2) 8月8日・・・「復興支援の集いIN東京」開催についてのプレス(資料配布)

(3) 8月31日・・・「復興支援の集いIN京都」開催についてのプレス(資料配布)

(4) 10月31日・・・平成24年度支援事業公募開始についてのプレス(資料配布)

(5) 12月12日・・・東京駅における募金活動と観光庁、福島県及びいわき市による復興支援PR活動実施についてのプレス(資料配布)

(6) 3月2日・・・平成24年度支援事業・パートナー事業(第1次)の支援対象決定についてのプレス(会見)

4. ポスター掲出・リーフレット配布等の協力要請

(1) 国立文化財機構(東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所)

(2) 国立美術館(東京国立美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館)

- (3) 会員優待施設(11 か所)
- (4) 観光関係団体(10 団体)
- (5) その他会員および事業関係施設等

あわせて、上記施設等の一部において、募金箱の設置協力をいただいた。

5. その他の広報活動

- (1) 全国近代化遺産活用連絡協議会総会での情報発信

7 月 21 日～23 日に山口県下関市で開催されたフォーラムにてプロジェクト開始にあたってのPRを行い、さらに賛同者である林田英樹氏(全国近代化遺産活用連絡協議会顧問)からも、参加者への協力要請を行っていただきました。

- (2) 日本建築学会「文化財ドクター派遣事業報告会」での取り組み報告

3 月 24 日(東京)および 29 日(仙台)に開催された報告会で、当財団のプロジェクトについて報告を実施、今後の協力要請やPRを合わせて行いました。報告会の成果はマスコミでも報道されました。

- (3) 関係団体の機関誌等における情報発信

- ・『観光とまちづくり』No.506((社)日本観光振興協会発行)
 - ・『The Great East Japan Earthquake -Report on the Damage to the Cultural Heritage-』日本イコモス国内委員会
 - ・『遺跡学研究』日本遺跡学会誌第 8 号
- 等において、本プロジェクトの取り組みを紹介させていただきました。

- (4) 新聞等への掲載

呼びかけ人の森まゆみ氏(当財団理事)により、『図書』2011 年 11 月(岩波書店発行)および朝日新聞紙上(平成 24 年 3 月 6 日朝刊文化面)で、本プロジェクトの紹介をしていただきました。
その他、日本経済新聞、河北新報、交通新聞等マスコミ媒体で、多数の記事が掲載されました。

6. 今後予定している協力企業との連携

- (1) 株式会社ビューカード 平成 24 年度「サンクスサポート」支援対象の設定協力

※カード利用により貯まったポイントを寄付することで、伝統文化の保護・継承活動等を支援する社会貢献プログラム

- (2) 寄付金組込みホテルプランの設定協力

ホテル名	プラン名	種別	寄付金額
ホテルメトロポリタン	プレミアムパーティープラン	宴会	@50 円
ホテルグランヴィア京都	次世代エコカーで、環境に優しい京都観光『京』の ECO 旅、『平清盛』ゆかりの地を巡る宿泊プラン	宿泊	@50 円
ホテルグランヴィア大阪	東日本大震災復興支援宿泊プラン	宿泊	@50 円
ホテルグランヴィア岡山	【地球にやさしく自然を愛するエコロジー】連泊プラン	宿泊	@50 円
ホテルグランヴィア広島	【東日本大震災自然・文化遺産復興支援】宿泊プラン	宿泊	@50 円
ホテルグランヴィア和歌山	【東日本大震災復興支援】宿泊プラン	宿泊	@50 円
三宮ターミナルホテル	宴会プランで調整中	宴会	@50 円
奈良ホテル	東日本大震災復興支援宿泊プラン	宿泊	@50 円
ホップインアミダニ崎	東日本大震災自然・文化遺産復興支援寄付プラン	宿泊	@50 円

■今後の課題

平成 24 年度支援事業の申請状況から、とくに津波被害の大きい岩手・宮城・福島沿岸部の建造物では、周辺の都市計画が決定しないために復旧の方針が定まらないことや、修理・復旧のための所有者への技術的支援が十分でないことなどにより、所有者等に保存の意思があっても、申請に至らないものも少なくない現状が明らかとなりました。

一方で、北関東に所在する多くの自然・文化遺産が大きな被害を受けているにも関わらず、東北地方の甚大な被害の陰に隠れてしまい、被害が認識されていないことで支援が行き届かず、復旧・復興が遅れている傾向も見受けられました。当財団ではそうした状況も考慮し、建造物については北関東に所在するものも複数支援対象といたしました。

また、募集の期間が短いことや、本プロジェクトの存在が所有者等に十分に及ばないために、申請できないケースも見られました。

今後は、震災による被害だけでなく、公費補助による建造物の解体などによっても存続の危機にさらされている自然・文化遺産が数多くあることを、より広く社会に訴えとともに、行政や専門家等との連携をさらに緊密にし、一つでも多くの自然・文化遺産に対して、地域のニーズに沿った支援を実現するべく事業の推進に努めていく所存でございますので、引き続き皆さまの倍旧のご支援をお願い申し上げます。